

## 編集後記

大学図書館にかぎらず、図書館の世界全体が大きな変革のなかにあるということは、いまさら言うまでもないことだが、変革ということは、これまでできなかったことができるようになること、驚異だったものがあたりまえになり陳腐になることもある。

早稲田大学図書館では、二〇〇五年度から、懸案であった和漢古書・貴重書のデータベース化にとりかかろうとしている。いうまでもなく、明治一五年の東京専門学校創立以来、幾多の先達の努力により蓄積されてきた大学の宝ともいえる貴重な文化財を、より広範な活用と研究の発展を期して、ひろく公開しようと考えているのである。

現在、早稲田大学図書館が所蔵している和漢古書（原則として江戸時代以前の刊行物や書写資料）は、約七万部、総数三〇万点におよぶが、これらの資料のカタログをすべて早稲田大学学術情報システム（WINE）に搭載し、一般書と同様の環境からの検索を可能にするとともに、それらの資料の画像データを書誌データにリンクさせるという構想である。もともと、文化財としての古書は保存を第一義とするあまり、ともすれば書庫の中に厳重に保管されるばかりで、結果として死蔵に等しい状態になっていた。この状況を大きく

変えたのが、デジタル技術の進歩である。当館でも以前より少しずつ貴重資料のデジタル化をすすめ、いくつかのコレクションの精細画像をWEB上に提供し、また展覧会に出陳した資料の画像も公開してきた。これらに対して、日本国内はもとより海外からもアクセスがあり、参考質問や資料要求が寄せられるという状況は、我々の予想をはるかに上回るものだった。

今回この「早稲田大学図書館古書データベース」（仮称）が完成すれば、早稲田大学図書館にとって画期的な試みであるばかりでなく、学術研究の面からも、また教育的効果という点からも、さまざまな方面に裨益するであろうことは想像に難くない。

ただやはり時間がかかることも事実であり、計画は五年ほどを予定している。一九九〇年に和書一般書の遡及入力に着手する前は、絶対そんなことは不可能であるといわれたが、結局、完遂できたことを思えば、この事業も順調に進捗するのではないかとやや楽観的に思っている。

近年、早稲田大学図書館に貴重な資料をご寄贈下さる方が多い。退職された先生方や校友各位のみならず、早稲田大学にまったく縁のない方からも資料寄贈のご照会があり、感謝にたえない。これも営々として早稲田大学のために地道な努力を積み重ねてこられた先

達の方々の余慶の賜物であり、私どもはさらに努力してコレクションを護るとともに、そのよりよい活用を目指すべきであろう。

二〇〇五年二月、元職員山本信男氏の訃報に接した。法律文献の専門家としての業績のほか、明治期図書のマイクロ化事業を推進され、当紀要にもたびたび稿を寄せられた。ご冥福をお祈りしたい。

早稲田大学図書館紀要へのご要望、さらなるご指導ご鞭撻を願うものである。

（文責・松下）

図書館紀要編集委員会

委員長 松下 真也（調査役）

委員 久保尾俊郎（資料管理課）

委員 渡邊 孝之（資料管理課）

事務局 渡邊 朝子（資料管理課）

早稲田大学図書館紀要 第52号

二〇〇五年三月十五日 発行

編集 早稲田大学図書館紀要

編集委員会

発行人 旭 英 樹

印刷所 (株)早稲田大学メディアミックス

発行所 早稲田大学図書館

東京都新宿区西早稲田一ノ六ノ一

〇三(三三〇三) 四一四一